

耳を大切にしましょう

3月3日は耳の日です

中耳炎と副鼻腔炎

北尾耳鼻咽喉科医院

北尾 健二郎

高須東3丁目13-7

耳鼻科の病氣も時代とともに変化してきて、アレルギー性鼻炎が増えて副鼻腔炎が減ってきたと言われて久しくなります。昔、畜膿症と言われたような、我々の子供の頃によく見かけた、鼻から青い二本線を垂らしていた子供達もあまりいなくなりました。

ただし、副鼻腔炎自体は昔と微妙に姿を変えながら、いまだにかなり多い病氣です。

今ではアレルギーの要素を含んだ副鼻腔炎が増加しています。

日常の診療でも鼻腔内に膿汁や水様性の鼻水を同時に認めることが多く、アレルギーの要素が疑われる副鼻腔炎が多く見ら

れます。

耳の病氣も、鼓膜に穴のあいた慢性中耳炎がかなり減少しているのに対し、中耳に水の溜まる滲出性中耳炎は増加しつつあります。

これは副鼻腔炎などの鼻の病氣が原因になっていることが多く、そちらのほうを治療していかないと再発を繰り返してなかなかスッキリ治りません。といっても、鼻の治療はそんなに簡単ではありません。特に子供では副鼻腔の洗浄のように、副鼻腔炎の治療に有効ではあっても痛みを伴う方法はなかなか施行しにくいものです。

これを改善するために、最近、滲出性中耳炎や副鼻腔炎の治療の際に、マクロライド系といわれる薬が使われるようになってきました。

これは抗生物質の一種ですが、これを抗生物質

として使うのではなく、通常量の $\frac{1}{2}$ 〜 $\frac{1}{3}$ を数ヶ月間使って副鼻腔炎を治療していくのですが、かなり有効だとの報告がなされています。

事実この方法が広まるにつれて、副鼻腔炎の治療もある程度、治療しやすくなっています。

ただし、まだまだ副鼻腔の洗浄や手術をしなければならぬケースも多くあり、特に子供では治療に苦労することも少なからずあります。

ともあれ鼻や喉の疾患が波及して耳の病氣になることが多いので、風邪などがきっかけで鼻汁が続いたり、喉の痛みが治らないときは耳のことも頭の片隅においておく必要があるでしょう。

やっかいな鼻や耳の病氣も初期ならば短い期間で治りやすいものです。

耳や鼻の病氣も早期発見、早期治療が大切です。